はじめに (数学基礎 B1)

数学基礎 B = 線形代数

教科書「要点明解 線形数学 三訂版」培風館

- (第1章 ベクトル)
- ▶ 第2章 行列
- ▶ 第3章 連立1次方程式

(第4章 行列式)

(第5章 行列の対角化)

講義の情報 | http://mathweb.sc.niigata-u.ac.jp/~hoshi/teaching-j.html

シラバス LINK

 ノートを取りながら講義を聴くこと. (ノートを回収して確認する可能性があります)
 講義 → 小テスト (理解度確認テスト,学務情報システム内)

第2章 行列

連立1次方程式を解いてみる! まず,簡単な場合のみ … 式の本数 *m* = 2 変数の数 *n* = 2 … *x*,*y*



$$\begin{cases} 2x + 3y = 1 & \cdots (1) \\ 6x + 9y = 4 & \cdots (2) \end{cases}$$

をみたす x, y は?

 $(2) - 3 \times (1) : 0 = 1$????????

解なし



$$\begin{cases} x+2y = 3 & \cdots (1) \\ 2x+4y = 6 & \cdots (2) \end{cases}$$

をみたす x, y は?

 $(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$????????

 $0 = 0 \quad \cdots (3)$

(1)かつ(2)の解 \iff (1)かつ(3)の解 \iff (1)の解

解は *x* + 2*y* = 3 をみたす全ての *x*, *y*

注意

解は無数にあり、すべて直線 $y = -\frac{1}{2}x + \frac{3}{2}$ 上にのっている

例3

$$\begin{cases} 2x + y = 3 & \dots & (1) \\ 3x + 2y & = 2 & \dots & (2) \end{cases}$$

をみたす x, yは? $2 \times (1) - (2) : x = 4 \cdots (3)$ $((2) - 3 \times (3)) \times \frac{1}{2} : y = -5 \cdots (4)$ $(1) かつ (2) の解 \iff (2) かつ (3) の解 \iff (3) かつ (4) の解$ 解は (x, y) = (4, -5) のみ

注意

上で**行ったり来たり (⇔→)** できることが重要 片向き ⇐, ⇒ だと<mark>全ての解をもれなくぴったり求めた</mark>とは言えない 一般の場合は?

式の数 *m* … 多い 変数の数 *n* … *x*,*y*,*z*,*w* … 多い

*x*₁, *x*₂,...,*x*₁₀₀,... 多い … 大変なので「行列」を用いる

上の例3

$$\begin{cases} 2x + y = 3\\ 3x + 2y = 2 \end{cases} \longleftrightarrow \begin{cases} x = 4\\ 3x + 2y = 2 \end{cases} \longleftrightarrow \begin{cases} x = 4\\ y = -5 \end{cases}$$

 $\begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 \\ 3 & 2 & 2 \end{pmatrix} \longleftrightarrow \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & 4 \\ 3 & 2 & 2 \end{pmatrix} \iff \begin{pmatrix} 1 & 0 & 4 \\ 0 & 1 & -5 \end{pmatrix}$

 $i 行 j 列にある <math>a_{ij}$ を行列 A o (i, j)成分 という. $A = (a_{ij})$ とかく.

定義 (行ベクトル,列ベクトル) $1 \times n$ 行列 (a_1, \dots, a_n) を長さ n の <u>行ベクトル</u>, $m \times 1$ 行列 $\begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix}$ を長さ m の <u>列ベクトル</u> という.

注意

行列 $A = (a_{ij})$ は、行ベクトル、列ベクトルを用いて

$$A = \begin{pmatrix} a_1 \\ \vdots \\ a_m \end{pmatrix} \qquad \begin{array}{l} a_1 = (a_{11}, \cdots, a_{1n}) \\ \vdots \\ a_m = (a_{m1}, \cdots, a_{mn}) \\ A = (b_1, \cdots, b_n) \qquad b_1 = \begin{pmatrix} a_{11} \\ \vdots \\ a_{m1} \end{pmatrix}, \cdots, b_n = \begin{pmatrix} a_{1n} \\ \vdots \\ a_{mn} \end{pmatrix} \\ \begin{array}{l} \text{ ともかける. } 教科書の太字 \mathbf{a}_1 は 手書きでは二重線 a_1 でかく. \end{array}$$



m

b

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{pmatrix}.$$

$$\frac{2 \times 2 \, \overline{7} \overline{M}}{2 \times 3 \, \overline{7} \overline{M}}$$
× n 行列どうしは 同じ型 という

定義
$$(A = B)$$

 $A = (a_{ij}), B = (b_{ij})$ を同じ型の行列とする.

<u>AとBは等しい</u> $\stackrel{\text{def}}{\iff}$ すべてのi, jに対して, $a_{ij} = b_{ij}$.

 $A \ge B$ は等しいとき,<u>A = B</u>とかく.

定義(零行列)

$$A = (a_{ij})$$
を行列とする.
 $A は 零行列 \stackrel{\text{def}}{\longleftrightarrow} すべての i, j に対して, $a_{ij} = 0$$

A が零行列のとき,<u>*A* = *O*</u>とかく:

$$\boldsymbol{O} = \left(\begin{array}{cccc} 0 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \end{array} \right)$$

定義(正方行列)

n×*n*行列を*n*次正方行列という.

▶ 正方行列は実際にかくと正方形

定義(行列AとBの和,差,定数倍)

- $A = (a_{ij}), B = (b_{ij})$ を同じ型の行列, cを実数とする.
- $A + B := (a_{ij} + b_{ij}) \quad \underline{A \ge B \mathcal{O}}$ 和
- $A B := (a_{ij} b_{ij})$ <u>A と B の差</u>
- $cA := (ca_{ij})$ <u>Aの</u> c 倍

X := Y は X を Y で定義する という記号

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列, O を零行列とすると, 次が成立する.

- 1. *A*+*B* = *B*+*A* (交換法則)
- 2. (A+B) + C = A + (B+C) (結合法則)
- **3**. A + O = A
- **4**. A A = O

定理 2.2

A, B を同じ型の行列, c,d を実数とすると,次が成立する.

1. c(dA) = (cd)A2. c(A+B) = cA + cB, (c+d)A = cA + dA3. A + (-1)B = A - B, 1A = A